

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館
令和元年度 第2回 定時評議員会
議 事 録

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館

令和元年度第2回定時評議員会議事録

日時 令和2年3月26日(木)
午後3時57分 開会
場所 調布市教育会館
302研修室(3階)

出席評議員(5人中4人出席)

評議員	武者小路	信和
評議員	瀧田	浩
評議員	小西	聡
評議員	齋田	文雄

理事	理事長	武者小路	知行
	常務理事	大木	正勝

相談役	福田	宏
-----	----	---

事務局	事務局長	福島	さとみ
	次長	伊藤	陽子
	主幹	生野	正毅
	総務係主任	石井	めぐみ

(午後5時13分 閉会)

[議事次第]

－理事長挨拶－

第1 議題

(1) 審議事項

ア 議案第1号 議事録署名人選出について

(2) 報告事項

ア 報告第1号 令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業計画（案）について

イ 報告第2号 令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館予算（案）について

第2 その他

- ・新型コロナウイルス対応について
- ・文化財レスキューについて
- ・春の特別展「『白樺』創刊110年 文学の道」－13年5ヶ月の軌跡－について
- ・東京2020大会応援プログラムへの参加認証について
- ・令和2年度の職員体制について

○事務局　それでは、定刻前ではございますが皆様お集まりいただきましたので、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館、令和元年度第2回定時評議員会を開催いたします。

初めに、武者小路理事長からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○武者小路理事長　どうも世の中が突然大変な問題を抱えることになりまして、武漢で起こったときには本当に対岸の火事みたいな気持ちで話を聞いていたんですが、もうそれが世界中に飛び火して、もはやもう人類全体の問題になってしまって、今日おいでになる皆様方も健康には本当にご注意いただきたいと思います。大変なときにお集まりいただいて恐縮ですが、評議員会を開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○事務局　ありがとうございます。

それでは、ただいまから定時評議員会を開会いたします。

評議員会の進行は、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第18条の規定により、評議員会に出席の評議員の中から議長を選出することになっていますが、いかがいたしましょうか。

（「事務局一任」）

○事務局　ただいま事務局一任の声がありましたが、事務局一任でよろしいでしょうか。

（「異議なし」）

○事務局　異議なしということですので、事務局から指名をさせていただきます。

小西評議員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」）

○事務局　それでは、小西評議員に議長をお願いし、これからの議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長　それでは、私が議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本日の評議員会の効力について事務局から報告をお願いいたします。

○事務局　本日は5人の評議員のうち、浅井評議員が欠席でございます。4名の出席を確認しておりますので、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第19条に定める過半数の定足数に達していることをご報告いたします。

○議長　それでは、お手元の議事次第のとおりに進めてまいります。

初めに、審議事項のうち議案第1号「議事録署名人の選出について」を議題といたします。

事務局から提案説明をお願いします。

○事務局　議案題1号「議事録署名人の選出について」。議事録署名人の選出につきましては、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第22条第2項の規定により、出席した評議員の中から2名を選任することとされております。

以上でございます。

（「議長一任」）

○議長　ただいま、議長一任の声がありましたが、議長一任でよろしいでしょうか。

（「異議なし」）

○議長　異議なしということですので、私、議長から指名させていただきます。

武者小路評議員と瀧田評議員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」）

○議長　ありがとうございます。

それでは、武者小路評議員と瀧田評議員が議事録署名人に選任されました。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、報告事項に入ります。

報告第1号「令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業計画について」及び報告第2号「令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館予算について」を議題とします。

報告第1号及び報告第2号につきましては、2案を一括して説明していただいた後、それぞれの報告ごとに質疑を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」）

○議長　それでは、ご異議なしと認め、そのように決定させていただきます。

それでは、事務局より報告第1号及び報告第2号を一括してご説明をお願いします。

○事務局　それでは、ご説明させていただきます。

報告第1号「令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業計画について」、令和2年3月26日、報告者一般財団法人調布市武者小路実篤記念館理事長、武者小路知行を報告します。

それでは、お手元にございます事業計画（案）を御覧いただきながらご説明してまいります。

まず、1ページ目の基本方針の部分でございますが、令和2年度に関しましては、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館が指定管理者に指定されて、その二期目の2年目ということになりますが、今回の二期目の指定管理は10年間の期間ということでございます。

また、令和2年度の特徴的な部分と申しますと、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催年ということでもございました。これにつきましては延期が発表はされましたけれども、これに向けて応援プログラムに参画するということで進めてまいりました。こちらが今年度の基本方針の中で1つ大きな特徴的な部分ということになります。

それから、事業運営業務としましては、引き続き日本で唯一の「実篤・白樺・新しき村」の情報発信基地としての役割を果たし、また市民の誇れる文化施設として事業を提供していくこと。それから、実篤記念館と実篤公園・旧実篤邸を効果的に相互活用することで、調布の文化施設としての魅力を一層高めていくことを方針としてまいります。

続きまして、2ページ以降の重点項目を中心にご説明してまいりたいと存じます。

2ページの下の段にある令和2年度重点的な取組というところの、まず第1番でございますが、博学連携の推進ということをして1つの重点項目として取り組みます。令和元年度にはミュージアムアドバイザーに博学連携推進のための委託をいたしまして、ワークショップなどを開き、ミュージアムアドバイザーによる提案などを頂いております。こちらを受けた形で実際に具体化していくということを重点的な項目として推進してまいります。新学習指導要領がスタートいたしますので、これに対応して実篤記念館が持つ豊富な作品・資料や情報を生かして、新学習指導要領の中にうたわれております社会に開かれた教育課程の実施について、学校と連携して進めてまいります。

この博学関連に関しましては、4ページの普及事業の上から段落2つ目のところでもご説明しておりますが、実際に具体化ということでもございますけれども、武者小路実篤の作品、それから「自分も生き、他人も生き、

全体も生きる」という実篤の考え方などについて教材を提案していくということ。それから、学習指導要領の中で重要視されております主体的・対話的な学習の場の提供。文学や美術の鑑賞の機会の提供。それから、そういった学校との連携のために学校が利用しやすい体制作り、実際に具体的にこういう利用ができる、あるいはこういう教材を提供できるというような形で実現に向けて推進していくということを重点の項目といたします。

戻りまして、また2ページになりますが、(2)の部分でございます。令和2年、2020年は『白樺』の創刊から110年目ということになります。これを記念いたしまして、特別展は春・秋ともに『白樺』創刊110年の記念の展覧会という位置づけで開催いたします。春は文学に関する展覧会ということで『白樺』の文学がどのように評価されていったかということテーマとし、秋は日本の近代美術に大きく影響を与えた『白樺』の美術紹介についてということテーマとして開催いたします。

こちらにつきまして、6ページの事業内容一覧のところでございますが、特別展のタイトルが、『白樺』創刊110年、春は「文学の道」－13年5ヶ月の軌跡－、秋は「美術への情熱」－160冊に込めた思い－、という形で開催してまいります。

戻りまして3ページです。(3)になりますが東京2020応援プログラム、企画展「実篤、欧米へ行くーベルリン観戦と美術行脚ー」の開催を行います。先ほども少し触れましたが東京2020オリンピック・パラリンピック大会につきましては延期が発表はされましたけれども、もともと文化プログラムに関しましては2年前からという形で大会への機運の盛り上げということもございますので、現在の計画といたしましてはこのまま実施する方向で進めてまいります。2020応援プログラムに関しましては、正式な認証を頂いて開催するということでございます。こちらにつきましては、実篤が昭和11(1936)年にベルリンオリンピックを観戦し、報道しているということ、それを中心としてヨーロッパに行ったことによりまして多くの美術鑑賞あるいは芸術家との出会いというものが実篤の活動に与えたものということを紹介していくということと、2020大会のテーマである「多様性と調和」というものが実篤の「互いの個性を尊重し、共に歩む」というメッセージ、生き方と合致しているということもございますので、作品を通じてそういったことを紹介していくことをテーマといたします。

続きまして、(4)ですが、調布市文化会館たづくり展示室での移動展

でございます。隔年で開催しておりますたづくり展示室での移動展ですが、令和2年度は実篤記念館の開催の年ということでございますので、実篤記念館が開館35年を迎えるということもありまして、昭和60年10月に開館した以降に様々な形で収集してきた作品・資料の中から名品展、名品を紹介する展覧会ということで企画しております。6ページの一覧の中にタイトルを表示しておりますが、移動展といたしまして「愛と美の宝庫」－実篤記念館収集名品展－、ということで開催してまいります。

3ページに戻りますが、このほか他施設との連携の推進、それから旧実篤邸の保存と活用、作品・資料の保存環境整備などを重点項目として進めてまいります計画でございます。

続きまして、事業概要でございますけれども、まず、3事業概要の1番ですが、展示事業といたしましては年2回の特別展と5回の企画展ということで開催してまいります。

4ページでございます。この普及事業は先ほどもご説明いたしましたが、学校教育との博学連携を中心としてまいります。

それから、資料収集・管理事業、それから資料整理・保存事業、閲覧サービス・情報公開事業、調査・研究事業ということになっておりますけれども、まず、資料収集・管理事業につきましては、引き続き情報の収集、それから購入、寄贈などの手続あるいは市への情報提供を行ってまいります。

資料整理・保存事業に関しましては、保存環境の整備を行い、また整理を行うことで展覧会での発表、それからデータベースなどへの登録による公開を進めてまいります。

閲覧サービス・情報公開事業でございますが、閲覧室での閲覧への対応、それから様々な研究などについての対応、それから調査回答などによるレファレンスサービス、それから情報提供システムを活用して情報の提供による利用の促進ということを図ってまいります。

調査・研究事業につきましてはですが、令和2年度は展覧会といたしまして特別展で『白樺』創刊110年をテーマとするということで、それに関連いたしましてこれまで蓄積してきた様々な情報に加え、文献などの調査によって新しい資料や情報の発見を進めております。

2020東京オリンピック・パラリンピック大会に関する企画展に向けましても、実篤とオリンピックの関わり、時代に関する資料などの情報の収集に努めております。

5 ページの（７）自主事業でございます。物販事業につきましては、引き続き自主財源を殖やすということにつながりますので、魅力のあるミュージアムグッズの製作などに取り組んでまいります。そして、それによりまして普及事業の充実を図ってまいります。

（８）施設管理事業でございます。実篤記念館の本館のほうは建築から３５年以上がたっております。新館のほうも２０年を過ぎておりまして、経年による劣化の進行に伴いまして不具合の発生件数が増加してきております。点検により状態の把握に努め、安全性、快適性、利用者のためのそういった状況の維持と、それから作品・資料の保存環境の維持ということに努めてまいります。日常的な管理とともに必要な情報を市と共有し、適切な対応をしていくようにしてまいります。令和２年度に関しましては、１階と地下をつないでいる、主に資料を運ぶのに使っておりますエレベーターの改修工事が計画されております。

もう一つ、トップライト、地下との吹き抜け空間の天井部分のガラスなんですけど、これが昨年度に熱割れということで大きなひびが入るということが起きておりますので、これについての修繕を行います。この大きな工事につきましては調布市が実施してまいりますので、これについて財団として協力していくということになります。

さらに展示室、閲覧室それから地下収蔵庫の空調につきまして、適正な温湿度となるように調整するのに非常に細やかな調整が必要な状況が続いておりますので、こういったことについて常に状態の把握をし、空調機器の細かな調整による環境の安定化を図ってまいりますとともに、できる措置につきましては市と協働して行ってまいります。

案内サイン、道案内などのサインにつきましては、引き続きデザインの統一を図り、英文表記なども加えて調布市の公共サイン整備ガイドラインに基づいて整備を続けてまいります。

（９）財団運営でございます。令和元年度からの指定管理期間が１０年となっておりますので、財団といたしましては長期的な展望を持って事業計画に取り組み、また人材確保と育成を図ることができるようになっております。令和２年度に関しましては、特に世代交代を図っていくためにベテラン職員から若手職員への知識や技術の継承を進めてまいります。また専門分野である事業とか総務分野の幅広い研修によりまして資質の向上を図ってまいります。さらに令和２年度といたしましては、人材育成の観点も含め人事評価の制度を導入するということに向けて準備を進めてまいります。

ということになります。

このほか、費用に関しましては事業収入の安定確保、それから自主財源の確保などを図り、また効率的・効果的な運営によりまして経費の抑制を図ってまいります。

このほか、利用者のニーズの把握などによりまして適切な対応をし、満足度のアップ、利用促進を図ってまいります。

この事業計画の中では、あと6ページ以降に細かいリストがありまして、一番最後の17ページが展覧会の日程となっております。

雑駁でございますが事業計画のご説明とさせていただきます。

○事務局　引き続き、報告第2号「令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館予算について」報告いたします。

予算書を見ていただきたいと思います。予算書の第1ページ、総括表でございます。令和2年度の予算書は財務諸表に連動した予算書形式となっております。

まず、1事業活動収支の部、事業活動収入でございます。当財団の予算は調布市からの補助金、指定管理料、受託事業収入、利用料収入によって展示・普及事業及び資料管理事業、施設管理事業を運営する一般会計と、物品販売事業と自主事業を展開する特別会計で構成されております。これらの2つの会計を総括した表となっております。

まず収入、補助金でございます。人件費と事務費からなっておりまして、予算額8,941万3,000円、前年度より103万5,000円の増でございます。

2指定管理料、3,013万3,000円で、昨年度の増減から言いますとマイナス71万9,000円でございます。これに関しては、令和2年度に隔年となる環境調査を実施いたします。前年度の収蔵庫の燻蒸との費用差、修繕費用の減によるものが大きくマイナスの要素となっております。

次に、3受託事業収入です。実篤公園の日常管理費と展覧会の受託からなっておりまして、合計718万8,000円でございます。前年度より39万6,000円の増となっております。

次に、4利用料でございます。入場者の料金と特別撮影料からなる利用料と、パンフレット等の頒布料の収入からなっておりまして、合計で130万円ございまして、前年度と同額となっております。これまでの平均的な入館者と頒布売上げを反映した額となっておりますが、今後コロナウイルス感染拡大防止の対応がさらに厳しくなり休館となるような場合

には、実際は利用料収入の減となる状況も考えられると思っております。

次に、5 諸収入でございます。事業参加費、友の会費、それから自動販売機飲料売上げ等の収入で40万1,000円、5万円の増となっております。これは、令和元年度までの自動販売機の飲料の売上げが堅調に伸びているということで20万円とし、5万円増として計上いたしております。

次に、6 自主事業収入です。628万5,000円でございます。主にミュージアムグッズ販売収入でございまして、2 物品販売事業収入が588万3,000円で、前年度より56万7,000円の減となっております。令和元年度の物販の売上げ状況と、またコラボ企画が実施された場合にも対応できる金額を設定いたしております。また、5 繰入金は科目設定のみとなっております。

次に、2 ページを御覧いただきたいと思います。最上部から2 段目がこれら事業活動収入の合計で1億3,472万円でございます、前年度より6万5,000円の増となっております。

次に、事業活動支出でございます。こちらは6 ページ以降で詳しくご説明いたしますので、合計額のご説明だけをさせていただきます。事業活動支出の合計が1億3,467万円で、前年度比6万5,000円の増ということでございます。これによって事業活動収入との収支差額については5万円となっております。こちらは後ほど出てまいります予備費の金額分となっております。

次に、3 ページを御覧くださいませ。Ⅱ 投資活動収支の部でございます。投資活動収入と支出はゼロとなっております。昨年度は投資活動支出のほうで什器備品製作の100万円がございましたが、今年は家具製作、ショップコーナーのリニューアル作業というのが令和元年度で終了いたしておりますので、今年はゼロ円の計上となっております。

Ⅲ 財務活動収支の部でございます。財務活動収入、支出ともございませんので、収支差額はゼロ円となっております。

次に、4 ページを御覧くださいませ。Ⅳ 予備費支出でございます。予備費は5万円で前年度との増減がゼロでございます。先ほどの事業活動収支の残額5万円が予備費の支出の財源となっております。次の行は全体の当期収支差額でゼロとなります。前期繰越収支差額が183万3,000円でございます。当期の収支差額はゼロ円でございますので、次期繰越収支差額も183万3,000円となります。

次に、5 ページを御覧くださいませ。科目別一覧で、Ⅰ 事業活動収支の

部の事業活動収入でございます。事業活動収入に関しては総括表でご説明させていただきましたので、先に進めさせていただきます。

次に、6 ページ、科目別一覧の事業活動支出のほうでございます。管理費、事業費、施設管理費、自主事業費の支出順となっております。支出内容については備考に記載しておりますが、合わせて御覧いただきたいと思います。

まず1 管理費でございます。事業運営のための人件費と財団運営のための事務費からなっております。人件費が合計で7,964万円、前年度より129万5,000円増。2 事務費が977万3,000円、前年度より26万円減ということになっておりまして、管理費合計では8,941万3,000円で、増減としては103万5,000円増となります。人件費のほうは人員構成がかなり大きく変わる状況で、それぞれの科目ごとの増減が大きくなっておりますので、増減の大きいところに対してご説明させていただきます。

1 職員給料でございます。2,629万円でございます、38万円の減となっております。これは職員の定期昇給も含んだ形でございますが、再任用職員の勤務日数がこれまで月16日でしたのが12日になり月4日減ということで38万円の減ということになりました。

2 職員諸手当の14万円増ということは、定期昇給や令和元年度の改正による増額でございます。

3 嘱託報酬でございます。非常勤嘱託4名の報酬でございます。昨年に比べて317万3,000円増でございます。これまで非常勤嘱託は専門員2名、事務嘱託1名の3名構成でございましたが、総務事務の業務の増加、それから総務事務の世代交代を図るために事務嘱託1名を増とさせていただきました。このために317万3,000円増となっております。これとは反対に4 臨時職員の給料が618万円から前年比143万円減ということになっております。こちらは受付の事務補助1名を減にすることで全体の総体の人件費を抑え、事務嘱託の導入を図っていることで減ということになりました。

5 臨時職員諸手当は事務嘱託の1名減を反映しております。

次に、6 社会保険料支出です。1,077万5,000円でございます、前年比18万9,000円の減でございます。再任用職員の勤務日数の減、これまでの事務補助が40歳以上の介護保険料を支出する対象でしたが、今回の事務嘱託は介護保険の対象にはなっておりませんので、そういった

細かいことの積上げで18万9,000円の減となっております。

9旅費でございます。特別展の借用先が倉敷の大原美術館ということで2往復する必要がございます。このために7万円の増額となっております。

事務費につきましては、財団運営の経費の縮減を図ったことから26万円の減ということになっております。

次に、7ページを御覧いただきたいと思います。2事業費でございます。実篤記念館の事業に係る費用でございます。合計で1,834万5,000円、前年度比129万2,000円の増でございます。1普及促進事業費です。展示や普及事業に係る費用で1,329万円の予算で、前年比130万円増でございます。こちらは『白樺』創刊110年に係る2回の特別展、それから東京2020応援プログラムの事業の増の分が反映しております。

大きく増減があります項目についてご説明させていただきます。2一般需用費でございます。447万1,000円で50万9,000円の増でございます。これは東京2020応援プログラムのポスター、チラシを作成する印刷費の事業分増になります。

また、3役務費は375万1,000円、前年比129万7,000円増でございます。応援プログラムと、それから『白樺』創刊110周年の記念展覧会で倉敷市の大原美術館まで遠出するということと、通常よりも応援プログラムで1回美術品の運搬費用が追加されるということで129万7,000円の増となっております。

これに対して4委託料でございます。405万3,000円でございます。前年比81万6,000円減でございます。これは、毎年映像制作費は撮影から録音、それから編集作業をかけて1年間で1本の作品を創っております。今回は、撮影映像は既にある作品を再編成するという事で経費の減ということで81万6,000円減となっております。

使用料及び賃借料でございます。52万円でございます。前年比25万円増ということでございます。これは『白樺』創刊110周年記念展覧会で借用料の発生する日本近代文学館と大原美術館からの借用料が増になったことで、この金額となっております。

2資料管理事業費です。資料の整理・保存に係る経費で157万3,000円。9万3,000円の減でございます。こちらも減ではございますが、通常どおりの業務ができることでコスト削減と、これまでの執行状況を見てこの金額の減となっております。

3 情報提供システム事業費です。347万6,000円、前年比8万5,000円の増でございます。委託料のほうで8万円の増となっておりますが、こちらは光回線移行のためデータベースのサーバーの再設定が必要となっておりますので、その分の費用増ということでございます。

4 受託事業費です。展覧会の受託事業に関して現在予定はされておりましたが、年度途中での依頼等もございますので、科目設定ということでこの6,000円の計上とさせていただいております。

次に、3 施設管理費でございます。1 施設管理運営事業費は実篤記念館の施設管理及び実篤公園の日常管理に係る費用でございます、合計が2,062万7,000円。156万5,000円の減でございます。

1 施設管理運営事業費、こちらは実篤記念館の施設管理に係る費用で1,344万5,000円。196万1,000円の減でございます。需用費に関しては光熱水費、消耗品等の料金アップや、様々な費用増ということでアップになっております。次に、8 ページの修繕料でございます。163万5,000円で前年比97万6,000円の減ということでございます。実際は施設設備の老朽化に伴う不具合が多くなっております。令和2年度はそれに対応するため雨漏り修繕や消火設備の交換のほか、日常修繕の件数が増えている状況ではございますが、前年度に各種高額な修繕を行っているため、少額な修繕の積上げであったことから修繕費の全体としては前年度予算より減となっております。それから印刷製本費は入場券の印刷の費用ですが、前年の入館案内のリーフレットの印刷費用よりは若干お安いということで22万円の減になっております。

役務費は、電話使用料で同額でございます。

次に、委託料でございます。575万9,000円。101万1,000円の減でございます。維持管理委託料の中で環境調査と収蔵庫の燻蒸の差額の減ということになっております。ただ、この減に関してはプラスマイナスがございまして、シルバー人材センターに係る清掃や、清掃事業者が新規契約になるために増ということも含んだ形の86万円減ということになります。

次に、2 実篤公園管理事業費でございます。総額で718万2,000円。39万6,000円の増でございます。こちらは、これまでございませんでした一般需用費が13万円増えております。新規で実篤公園の管理に関わる消耗品の費用として新たに13万円が計上されております。

次に、2 委託料でございますが、こちらは維持管理のほうでシルバー人

材センターの単価増や清掃業者の新規契約による増のため629万1,000円を計上し、前年度より25万9,000円の増となっております。

次に、4自主事業でございます。合計金額628万5,000円、前年比69万7,000円減でございます。

2物販事業費でございます。515万5,000円で前年比77万7,000円減ということになっております。好評の限定チョコとコラボ企画等でグッズ販売することを想定したとしても収入全体が減額となっていることから、それに比例して全体的に減額しております。特に商品の仕入費が55万2,000円減となっております。これは長年の課題でした複製色紙の再販を2年間で終了したことも減額の理由となっております。ただし、好評の限定チョコについては製作個数を増とする予定でございます。5委託料です。主にミュージアムショップの改修に伴う実施設計と製作監理費が終了したことにより12万円の減となっております。

3自主事業費でございます。合計額が112万円で前年比8万円増となっております。こちらは観梅のつどいや朗読ワークショップなどの開催する経費などに充てられるものでございます。特に9ページをご覧くださいと思いますが、5委託料のほうで31万5,000円。8万5,000円の増となっております。新規として施設管理アドバイザーの委託を想定した予算計上になっております。ここ二、三年、これまで経験したことのないような大きなガラスの熱割れ、雨漏り、そして設備の老朽化による不具合などが多発しております。当財団が指定管理者となりました時点より問題はかなり深刻化しております。このため、一昨年ミュージアムアドバイザーに施設や設備の修繕等の現状や今後の修繕時期などを検討するためのご提言を頂いております。また、当館は博物館施設としての要件もあり特殊な工法で建設している箇所も多いこと、全体の意匠との兼ね合いなど修繕にも専門的な判断を仰ぐ機会が増えております。このため、財団としては専門家から修繕方法や対処方法を適時にアドバイスしていただき、施工会社に対しては当財団の立場に立って説明、確認していただくことが施設管理業務において必要と考え、財団の自主事業費の中で施設管理のアドバイスを頂くことを令和2年度に試行していくために計上いたしております。

以上で事業活動支出は1億3,467万円、前年度より6万5,000円の増でございます。そして収入から支出を引きました事業活動収支差額は

5万円でございます。こちらは予備費に当たります。

Ⅱ投資活動収支の部は、収入、支出とも先ほどご説明したとおりでございます。

10ページを御覧ください。Ⅲ財務活動収支の部でございます。財務活動収入、支出に関してはいずれもゼロ円でございます。

Ⅳ予備費でございます。予備費は5万円でございます。前年度と同額でございます。予備費は緊急的なことに対応しており、万一の不足の場合は積立金などを繰り入れて緊急的な対応に備えたいと考えております。

そして当期の収支差額がゼロ円ですので、前期繰越収支差額が183万3,000円を計上、次期繰越収支差額は同額の183万3,000円となります。

以上で令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の予算（案）の説明を終わります。

○議長 ありがとうございました。

ただいま事務局の説明が終わりました。

初めに報告第1号「令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業計画について」、質疑、ご意見はございませんでしょうか。どうぞ。

○瀧田評議員 重点的な取組の（5）他施設との連携の推進のところに当たるのかと思うんですが、今年度の企画で『白樺』創刊110年、文学と美術でやるということなんですが、例えば有島記念館、有島武郎も『白樺』の重要な人だし、里見弴なんかもいるわけですが、北海道の有島記念館とか、あと鹿児島島の川内まごころ文学館とか、あと信州到有島生馬の記念館があったりして、そのあたりと連携して直筆の資料なり写真なりを集めてやっていこうみたいなことをお考えにならなかったのかなと。何かもっとそういうところと提携したらいいんじゃないかなということを、僕は今、ちょうど有島武郎研究会の会長もやっていて、記念館との交流もちょっとありますので、そういうものをもっとやっていいのかなと思いつつ、今回はそういうところで提携しないのかなということを質問したいと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局 資料の貸し借りというのは少なくとも春には計画しておりません。1つには有島記念館が北海道ということで言いますと、あそこでの資料のやり取りとなると相当な経費もかかってしまうということが1つ。

それから、川内まごころ文学館に関しましては、基本的にあそこからの資料の実物が出るということがないということが前提にありまして、写真

などをお借りすることはできますが、実際の資料を東京までお借りするということは原則できない、あちらの規定としてできないというところもございます。

信州新町の記念館とは過去にはやり取りをしたことがありまして、今年度はちょっと計画はございませんが、情報の交換などは折々に起きております。

それから、今回の春に決定している借用先といたしましては神奈川の近代文学館、鎌倉文学館、それから学習院の図書館などの資料につきましてはお借りすることが既に決定しております。そのほか、情報とか写真などはそのほかにもご協力いただいている部分がございます。有島記念館さんとは担当者レベルではいずれ何か一緒にやりたいという話は出るんですが、お互いに大変距離が遠いということがありまして、なかなか輸送の問題とか、あとそれから資料の展示期間の問題ですとか、例えば神奈川の日本近代文学館とかは何日以内という厳格な決まりがあるんです。あとルクス設定、照度の設定などの決まりがあるんですが、そういったものの各館の事情などもあってなかなか実現しないというのが現状かなと思います。担当者レベルでは、今挙げた館は全て何か一緒にやりたいという話は出ております。

○瀧田評議員　でも、記念館の展示も、もうどんどん重ねてきて、新たなアプローチをすると何か新味も出てくるんだろうなと思うので、大変なことはあると思いますが、見る側からすると推進していただきたいなと思います。

あともう一点、他施設との連携でいうと、昨年になりますけれども「人間万歳」の演劇が行われて、すごく面白くて、あれはほかの団体でやるのを記念館を通して紹介していただいて面白かったんですが、例えば劇団とかと連携して共催みたいな形で記念館と劇団で一緒にやるとか、何かそういうコラボレーションとかもやったら面白いんじゃないかなと思うんですが、そういう記念館のほうから企画を投げて劇団と一緒にやるとか、何かそういうことというのは可能性としてどうなのかなというのをちょっとお聞きしたいんですけど。

○事務局　経験がないので詳しいところが分からないんですが、経費的な部分についてどういうふうなことが起きてくるのかなということが1つあります。予算化することができるような形での実施があるのかどうかということが、ちょっと経験がなくて分からないということ。

それから、逆側のことで言いますと、「人間万歳」もそうでしたし、日本の近代戯曲研修セミナーのリーディングなども決まってからチラシとかウェブでの告知でこちらも知るという形で、こちらも一般と同じタイミングでしか情報を頂いていないということもあって、何らかのアプローチがあれば、予算的なことは別としてご協力ということもあり得るのかと思うんですが、実際にはこちらへご相談がないということがスタートでできないということにつながっているかなというふうには思います。

○瀧田評議員 分かりました。ついでにもう一個、(1)の博学連携、あっ、こういうことがあるんだなと思って面白かったんですが、これは新学習指導要領というのは初等教育、中等教育、高等教育とかでいうと、どのレベルの学習指導要領に関係しているんですか。

○事務局 学習指導要領自体は全部変わって、1年ずつずれて実施されることになるんですけれども……。

○瀧田評議員 この博学連携に言及しているのは全部ですか。

○事務局 基本的に全部です。

○瀧田評議員 そうなんですか。知らなかったです。

○事務局 社会に開かれた教育課程であるとか、そういった方針は共通してしまして、その中で博学連携というのも1つ挙がってきているものなんです。それに対してということですが、今具体的に既にやり取りがあるのは小・中学校なので、その既に実績のあるところから始めていこうというふうには考えております。

○瀧田評議員 大学も含めてでいいんだったら、二松学舎の大学生の子供たちと幾らでもできますので、その場合にはお声がけください。

○事務局 また、じゃあ、先生にご相談して、何か大学という形での考え方というのもぜひ相談させてください。

○瀧田評議員 大学のほうもそういう地域連携とかいろいろやれと言われているので、声がかかれば積極的に取り組めるのと思います。

すみません、たくさん質問してしまいましたが以上です。

○議長 そのほかご質問はありますか。よろしいですか。

なければ、質疑を打ち切ります。

次に、報告第2号「令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館予算について」、質疑、ご意見はありませんでしょうか。

私のほうから、確認ではないんですけど、予算のところで来館者の見込みの話でコラボとか、イベント連携の見込み、見通しみたいのところ

でちょっとだけコメントなんですけど、ご存じのように4月から「文アル」のアニメ化ということで、話数が今見た限りではすぐに見つからなかったんですけども多分1クールだと思うので13話、3か月、4、5、6月にテレビ東京ほかで放送されるんだと思います。多分実篤メインじゃなくて名前だけ出ているような雰囲気、あまりメインでは出てこないんだろうなとは思いますが、一応志賀さんとキャストで入っているんです。声優は替わらない形でアサインされているはずだと思ったんで、それなりにまた少し、コロナがなければなんですけど4、5、6月は結構注目されて動きがあるのかなとちょっと思っていますが、ほかは、あとは来館者は増えてほしいなと思いますという件。

それから、昨今よく言われている日本刀なんかでかなり話題になっていますけれども、結局新しいファンがついて云々ということを考えてときに、ああいう方々というのは推しに対して惜しみなくお金を投入するということをするので、おいでになったときに何か記念にとか、こういったものがというので、記念じゃなくても、別に実篤の本でも何でもいいんだと思うので、買っていただけたらとか、分からないですけど友の会に入っていたとか、お金を落とすという言い方はちょっと適当かどうか分からないんですが、そういうものに対して気持ちを持っている方がお金を気持ちよく払っていただくとかというようなものというのはどこでも必要なんだろうなと思ってはいます。自分も、個人的にいい展覧会だったら図録を買って帰ろうというのは、重かろうが高かろうがやるというのをやろうと思っているので、比較的年齢層の高いとかお金がある程度自由になれるような方々が多いとお見受けしているので、そういったところはこれまでも取り組まれていると思いますし、今後も多分続くんだと思っているんで、いろいろな動きなり、あるいは直接コメントなどをとりながら、「どんなものがあるといいですか？」みたいなことでいろいろやっていらっしゃるんだとは思いますが、あとは館としてのご判断だと思いますが、そういうところにあまり気持ちとか手間をかけすぎるのはどうかとか、そういうのはあると思うんですけども、可能性があって、収入ですね、自主事業のほうの収入を少しでも増やすというところに寄与できるのが、少ない手数で寄与できるものがあれば、単価が高いほうで何かできるのがあれば面白いんじゃないかなと思いました。コメントです。

○事務局 お答えしたほうがいいですね。

○議長 はい。

○事務局 「文アル」さんとのコラボというのは、確かに今回4月からアニメということで、また1つの新しいムーブメントになると考えておりますので、何らかの形で将来的にはリンクできるといいなとは思っております。ただ、今回の1クールのアニメにおいては武者小路実篤というのは特段……。

○事務局 出てはきます。

○事務局 出てはきますけれどもメインではないということもございしますので、ということは伺っております。

ただ、ムーブメントが出てきたところではございますので、何らかの形で連携できるといいなというふうに希望はしておりますが、DMMさんとかのお仕事の状況とか、パテントの問題とか、当初の我々の一番最初のコラボ企画よりはいろいろシステムチックで、お考え方も随分変わられているというようなこともありますので、我々の記念館でどう受入れたり、実行できるかというのは、少し考えていく時間が必要かなと思っております。ただ、やはりいいムーブメントであるので、それをなるべくなら機会を捉えて、年度内にでも関わればいいかなというふうには考えております。

また、ミュージアムグッズに関しても、基本的なものを去年少し増刷させていただきましたので、新しい新味の商品を、それこそお金を惜しまないような人たちも想定しながら一、二点ぐらいは年度内に新しく作りたいなということも考えております。

あと、利用料金の問題ですけれども、これでコロナの問題が出てきて若干入館者数というのが減ってはいます。ただ、なぜだかほかの館のようなゼロとか激減ということではなかったことなので安定はしているとは思いますが、どうなるか、ちょっとその辺は読めません。ただ私どもの記念館としては令和2年度に関しては春・秋の『白樺』110年と、2020のプログラムで少し広報する機会がかなり大きいかと考えて利用者増を図りたいと想定した展覧会重点の来年度の事業計画ではございますので、利用者増、そして収入増につなげていければなとは考えております。

○議長 ありがとうございます。

○瀧田評議員 それに付随してなんですけど、せっかく武者小路のキャラクターがいるわけなので、『白樺』創刊110周年とキャラクターを合わせたようなクリアファイルを作って売ってもうけるとか、そういうことは可能性としてはないのですか。

○事務局 ゼロではないと思います。

○議長 著作権が厳しくなっているんだと、なかなか時間がかかりそうですね。

○事務局 ちょっとパテントを、このデザインでやりたいです、これで、じゃあ、承認します、色校でとか、かなり時間が思ったよりもかかるようになってきたんです。それと権利関係の契約手続とか。

○議長 結構面倒くさくなってきているんですね、きっと。

○事務局 契約手続が煩雑になりました。一番最初的时候はほぼ形だけだったんですが、かなりそこが、やっぱり始まってから3年の間に向こうもそういうお仕事が増えたということだと思いうんですが、かなり難しくというか煩雑になっています。それから、あちらの手が回っていないような感じがちょっとあって、いろいろな進行が遅いということもあります。なので、どこかの時点でアプローチしたとして、ちょっと時間がかかるかなという感じはいたしております。

○瀧田評議員 でも、チャンスがあれば試みていくといいと思います。

○議長 ほかにご意見、ご質問はありますでしょうか。

○瀧田評議員 もう一点、僕のほうから。すごくザクツとした質問で恐縮なんですけど、大体1億円ぐらいでやっているんですが、調布市におけるこの武者小路記念館の文化事業としての重要度というのはどんな感じなのか、ほかにどういう文化事業とかがあって、どれぐらい重要なのかと。僕は調布市に住んでいるわけでもなくて、ほかと比較したこともないんですが、すごく重要だから今後さらに予算が傾注されることが見込まれるとか、ほかにもっと文化事業としてもうかっているものがあるから今後厳しいとか、何かそういう総体的な調布市における文化事業における記念館というのはどんな感じなのか、イメージだけでも分かればなと思いうんですが、どうですか。

○大木常務理事 どこの市でも、こういう今先生がお尋ねになったことは基本計画という形で表されているわけです。私どもはその中では郷土博物館と同じグループの中で位置づけられていまして、基本的にはその地域固有の文化施設という形での評価を頂いています。じゃあ、それはどういうことなのかということになりますと、やはりそこに暮らして小さい頃から住んでいらっしゃる方がふるさととしての意識を持つ、地域愛といいますか、それとやはり武者小路記念館は調布市にしかないのもので、その独自性みたいなものはこれからも発揮していつていただきたいというような形の行政サイドのお話は連綿と続いております。

基本的に今後どうなるかということになりますと、別の機会で話したことがあるんですけど、調布市自体は今、文化会館たづくりがあって、公民館、地域センター、そういったものを、世田谷区がそうしているんですけど1つの文化財団という形で統合していくというような話が将来的に出てきたときに、そういった内容で美術館自体を、じゃあ、どうするのかとか、そういった発展的な話が出てくるという形になってくるんですが、よくこの理事会で話題として取り上げられる、「何で公益財団法人化しないか」ということになるんですけど、そういうふうになったときに初めて収益事業として公益財団法人になる条件がそろうということですので、そういった将来像を見据えて市は動いております。私は正直、市の職員で退職後にここに来ているわけなんですけど、少なくとも調布市は武者小路記念館をととても大切にしているなという感じはします。

○瀧田評議員　　ああ、そうですか。

○大木常務理事　　はい。基本的にぶれがないというんですか、やっていることに継続性があるって、一定の評価を頂いているということは非常に大きく市のほうを考えていて、先ほど先生がおっしゃった博学連携の中で、今回の学習指導要領の大きな点は与えられた知識を吸収するということはもうやめまじょうと、要するに地域の人や地域にある文化施設を利用して自分たちが自主的に学んでいくというような、そういった姿勢を子供たちに植え付けていこうという、そのときにとっても重要なツールとしてうちが存在するのかなという形ですね。やはりそういったことを念頭に置いて、先ほど福島の方で説明したんですけど、ミュージアムアドバイザーの先生とどうやったら博学連携を有効に展開できるのかというのを元年度に1年続けてやっていましたので、それを今度は指定管理期間が10年になりましたので、分かりやすく言いますと小学校1年で入った子が10年間で中学校を卒業すると、その中で何をどういうふうに体験させていったらいいのかという、そのプログラミングですね、そういったものをうちのほうで作っていったらなと思っています。当然去年の検討の中では博物館の学芸員も参加していますので、その基本計画の中で同じ位置づけのところにあるこの2つの施設を使って小学校、中学校の皆さんが武者小路実篤を通じて調布のふるさと意識を持って身につけていただければなという、簡単に言っちゃうとそういう感じです。

○瀧田評議員　　そうですか、よく分かりました。聞いてみてよかったです、イメージが。

○事務局　大木常務理事が言いましたように実篤記念館を非常に大切にしてくれているということと、ある種の予算の枠内ではございますけれども、その中では確保はしてくださっている状況ではあります。先ほどの基本計画でも実篤記念館が基本的にやります事業運営を把握した中の金額の想定は出ておりますし、多少事業計画を先延ばしにしたりという大きなイベントとかの場合も、ちゃんとそのイベントのときにはお金をつけてくれますし、例えばシステムの更新などについても計画的に予算をつけるというようなことをこれまでも、そしてその先も想定したことも説明を受けておりますので比較的大切にされていますし、それなりの私どもの活動実績というのにも評価されているのかなと思います。

○瀧田評議員　となってくると、逆に職員さんが地元の小学校とか中学校に行って説明するとか、何かそんなことも増えていってもいいのかもしれないですね。

○事務局　そういうきっかけ作りが今年度かなという形だと思っています。

○大木常務理事　昨年、おととしか、地域学習会の中に参加させていただいて、伊藤次長が地域のお子さんとその保護者の方に武者小路実篤のことを説明したという、そういう形でのアプローチを行いましたので、今後、それは四中と若葉小なので近いんですけれども、もっと違う、ちょっと記念館から離れたところの小・中学校にアウトリーチというか、うちのほうで出前をさせていただいて、そこでやれたらなというのを考えてございます。

○瀧田評議員　大学の先生が出張講義に行くみたいな感じでどんどん行きますよというような感じも。

○事務局　博学連携の令和元年度の検討の中でいろいろ出てきた中に、やっぱり学校がどう使っていいか分からないというところがあるので、こう使えますよという提案をするというのがこれからのまず第一歩で、それを提案して使っていただいて、今度は私たちが出て行くであるとかという形につなげていきたいと考えています。

○瀧田評議員　分かりました。ありがとうございます。

○事務局　ありがとうございます。

○議長　ほかによろしいですか。

なければ、質疑を終わりといたします。

ご異議なしと認め、報告第1号「令和2年度一般財団法人調布市武者小

路実篤記念館事業計画について」及び報告第2号「令和2年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館予算について」は、了承することに決定いたしました。

以上で議案の審議は全て終了いたしました。

次に、その他の報告事項5項目について、それぞれ事務局から一括して説明をお願いいたします。

○事務局　それでは、議事次第にございます順でご説明させていただきます。

まず、新型コロナウイルス対応についてでございます。2月末からイベント事業に関しては中止ということでございます。調布市の指針で4月末日までの事業に関しては中止という指導が出ておりますので、本日お配りした資料の中でそのスケジュール等が書かれております観梅のつどいや、四中との連携のコンサートなどが中止になっております。ほかにボランティアガイドなども中止になっております。そして今日、一番トップにございました学校も3月から休校になっておりまして、その対応で、ツイッターで実篤記念館が「おうち時間で学ぼう」ということを提案して、実篤記念館としては解説シートを毎日のように更新していく、それから小・中学校に出しております展示パネルなどもそういったことで出していったり、実篤公園の自然などをクイズにしたりというような活動をしております。ハッシュタグのほうで、2枚目に関しては他の文学館や美術館、自治体にいろいろ参加もしていただいております。私どもも知り合いに呼びかけもいたしましたけれども、この企画に全然知らないところもわざわざ乗ってきていただいているということで、かなり広範囲で広がっていているという状況で活用していただいております。

そういったプラスの面を積極的に私ども実篤記念館でやっておりますが、昨晚の都知事の自粛要請によりまして、現在調布市内の社会教育施設につきましては3月28日、今度の土曜日から4月12日まで臨時休館の方向で指導が出ております、準備をするというような指示が出ております。ですので、これまで開館してまいりましたが土曜日から休館する予定でございます。休館中の対応については今後準備して対応していきたいと思いますが、恐らく正式には明日発表になるかと思っております。

あと、実篤公園についてですが、現段階では実篤公園を管轄する部署では公園は開園するという判断をされておりますが、現在、市の部長クラスの緊急対策会議が行われておりまして、そこでの指針によっては対応が変

化することがあるかと思います。いろいろ即時対応とかしていかなければいけない状況で、日々状況が変わっていくということに即応していかなければいけない状況ではございます。

新型コロナウイルス対応については以上でございます。

○事務局　続きまして、文化財レスキューについてでございます。お手元に資料をお配りしておりますが、1枚目のところに当館における川崎市市民ミュージアムの文化財レスキューの経過をまとめたものがありまして、その後ろに川崎市が報道発表資料として公表したものをつけてございます。皆様ご存じのとおり10月12日の台風による浸水で、川崎市市民ミュージアムは地下に収蔵庫があるんですが水没したという状況です。それに対してミュージアムレスキューが入るということで、私ども実篤記念館は全国美術館会議の会員なので、そちらからの協力要請で参加いたしました。

それで、この1枚目の活動一覧ですが、11月14日からとなっているんですが、報道発表資料の1枚目を見ていただきますと、1の(1)の経過の中では、11月15日から外部支援団体によるレスキュー開始となっています。私どもの開始日は1日早いんですが、立地として非常に近いということもありまして、まだ公式に始まる前の予備作業からお声がかかって入ることになりました。刻々と状況が変化していく中で、実篤記念館の5名の学芸員資格を有する職員、専門員が順次参加させていただいて、経験してきました。この14日、15日という早期に入らせていただいたんですが、実際にはかなり状況がこのミュージアムは悪くて、11月14日の2日前には収蔵庫の天井が落下するというような事故があったりとか、それからちょっとあり得ないほどのカビの胞子の濃度があって健康被害が起きかねないというような、かなり厳しい状況の中で、特に最初のテスト作業は入らせていただきました。活動した職員にとっては肉体的な部分もそうですが、精神的にかなり厳しかったということを言われました。

実篤記念館は一度水害を受けておりますので、その経験を生かすということと、逆に今後はこちらが水害によって被害を受ける場合があり得るということで経験を積んでいくということのため、それからもちろん文化財の保護に資するためということで活動に参加しました。

川崎市は3月いっぱいで一応全ての資料の救い出しをしたいということを言っていますので3月いっぱい1つの段階が過ぎますが、4月、5月と続く中でまた私どもからご協力できるチャンスがあれば、また参加してスキルを上げていきたいと考えております。

続きまして、春の特別展についてですが、お配りしてありますものがチラシのカラーコピーでございます。まさに今日、色校正が校了して、これから刷るという状況でございます。ただいまポスター、チラシ、それから図録の編集中ですけれども、今回、先ほども少しご質問関係でお話はしたんですが、これまでも展覧会を周年でやってきておりますが、今回はどのように評価されてきたかということを1つのテーマとして取り上げるということで、文献などの調査の結果をご報告する展覧会にしたいとして取り組んでおります。

続きまして、東京2020大会応援プログラムの件ですが、お配りしておりますのは参画プログラムに登録された部分のプリントでございます。2020のプログラムにつきまして、一般財団法人などが承認を得られますのは応援プログラムというもののなので、そちらの応援プログラムへの参画を申請して、認証を頂いております。結構いろいろ2020は厳しいんです。オリンピック・パラリンピックに関する部分は厳しくて、まずタイトルも、実はここにオリンピックと入っておりませんのは、参画プログラムの規定によります。この後もチラシなどにつきましては各段階での審査が入るということがありますので、そういったものをきちんとクリアして、正式な参画プログラムとして実施したいということで進めてまいります。

次に、一般財団法人調布市武者小路記念館の職員体制についてご説明させていただきます。常務理事の大木、事務局長の福島、主幹の生野、事務局次長で事業係と総務係の事務取扱いの伊藤という、大木、福島、生野、伊藤の管理職体制は変わりございません。また、総務係、事業係の職員、石井、佐藤、清水の常勤正職員に関しても変わりがございません。

嘱託職員（専門員・学芸員）に関しては、月20日で佐々木と鈴木が引き続き勤務いたします。嘱託職員（事務嘱託）のほうは工藤京子が月20日で現在やっておりますが、これに加え市川智尋が新規採用となりました。経理・事務のほうの業務の引継ぎが中心となる人事的な採用ということになっております。臨時職員の学芸員の犬飼、寺田、それから事務補助の小畑、金光に関しては引き続き勤務いたします。総勢15人の人員体制で令和2年度は臨みたいと考えております。

以上です。

それから、それ以外に新聞報道のコピー、実篤記念館の事業に関すること、実篤関連の主な記事ということでご紹介していますとともに、ぐらっとパス2020にも参加いたしますので、そちらのほうのチラシが出来上

がっておりますので一緒に配付させていただきました。

以上でございます。

○議長　ただいま事務局の説明が終わりました。

その他の報告事項に関して、ご質問とかご意見はありますでしょうか。
よろしいですか。

なければ、ここで終わりにさせていただきます。

特にないようであれば、本日予定しておりました案件は全て終了いたしましたので、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館令和元年度第2回定時評議員会を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。

(午後5時13分 閉会)